

「原発事故後の農業と地域社会の再生」を読んで

私は、地域社会の再生と聞くと、何かイベントであったり、集客力のある建物を建てる事ばかりを考えてしまうが、農業の面から再生にアプローチしていくというのは衝撃だった。しかし、試料を読み終わったときには、舘坂村が放射性物質によって汚染されてしまったことを考えれば、新たな人口を呼び込むよりも、戻ってきた住民が元通りの生活を送れるように環境の整備に取り組むのは、至極当然のことだと思った。また、除染後の農地に残された問題のうち、コミュニティの崩壊についての説明を読んだとき、放射能が与える影響には、科学的なものだけではなく、人と人のかかわりという文化的、精神的なものもあるのだとわかり、とても恐怖を覚えた。科学技術によって土地そのものは回復できても、そこに根差していたコミュニティは簡単には回復できないだろう。震災当時、自分は小学一年生だったが、幼いながらも、放射能に対して漠然とした恐怖を感じたことを覚えている。放射性物質の恐ろしさを理解できる大人なら、なおさら恐怖を感じただろうし、それでもなお帰村という選択肢をとった村民には尊敬の念すら覚える。地域再生の定義は人によって様々だと思うが、土地が回復し、そこで新たにコミュニティが再構築されて、はじめてその土地は再生したといえるのだろうと私は感じた。また、FPBLについても私は興味を持った。大学で講義を受けているだけでは絶対に身につくことのない課題の発見能力と解決能力を養うにはもってこいの学習法だと思う。これを若者だけでなく、幅広い年代の人に受講してもらえれば、偏見なども取り除けると思うし、何より本当の意味での地域再生に一步近づくのではないだろうかとは私は考えた。

「福島県飯舘村の除染に尽カースマート農業で再生へ」を読んで

最近になり、その重要性が叫ばれているスマート農業であるが、農地モニタリングなどを導入し、従来からあったその土地の農法が半強制的にリセットされた状況をチャンスととらえられるのがまず素晴らしいと思った。ここで中途半端にスマート農業を導入するよりも、いっそのことすべてをスマート農業化し、農業の最先端に行くモデル地区としてしまおうという、ピンチを逆手にとる発想も地域再生には重要であると強く感じた。

質問

先生たちが開発した除染方法は、なぜ公的には採用されなかったのでしょうか。